

常勤的スクールカウンセラーの成果と展望 —徳島県における取り組みを振り返って—

小倉正義 (鳴門教育大学)

キーワード: スクールカウンセラー, 常勤

問題と目的

現在, わが国では全国的にスクールカウンセラー (以下, SC) が配置されているが, 週 1 日 4 時間~8 時間程度の勤務で働く SC が多い。しかし, 社会的なニーズもあり, SC の常勤化が実施, あるいは常勤化が検討されている地域も増えてきている。徳島県では, 2017 年度より, 阿波っ子 “いきいき “未来応援プロジェクト” 事業の一環として, SC の常勤化モデルの検証がスタートした。具体的には, 徳島県内の高等学校 2 校 (1 校は全日制・定時制のある高等学校, 1 校は定時制と全日制 3 校舎がある高等学校), 教育支援センターの計 3 箇所, 1 日 5 時間, 月 20 日の SC の派遣を実施している。本研究では, 2017 年度, 2018 年度の事業の効果検証を行う一環で実施された高校生と教職員への質問紙調査の結果から, 常勤的 SC の課題と展望を整理することを目的とする。

方 法

高校生と教職員に分けて, 調査時期, 研究協力者, 質問紙調査の内容を記す。

高校生

2018 年 11 月に徳島県内の 5 校の高校生 2 年生 1064 名に質問紙調査を実施した。5 校のうち 2 校は常勤的配置, 3 校は週 1 回配置されている学校であった。実施された質問内容のうち, 本研究では「学校に SC がいることを知っているか?」のみに分析対象とした。質問に対して「知っている」「知らない」で回答を求めた。

教職員

2018 年 11 月に徳島県内の 5 校の高校, 1 つの教育支援センターの教職員 299 名にアンケート調査を実施した。アンケート内容は, 「今までにあなたの学校の SC と交流したことがありますか」, 「SC は学校に必要なだと思いますか」, 「学校に SC がいることで, 先生以外に相談する相手が増えるなど, 生徒が困ったときなどに, 生徒をより助けてくれると感じますか」, 「いじめ, 不登校等生徒指導上の諸課題に対して, SC が関わることで, 生徒の抱える課題が『解決』または『解決の方向へ向かっている』件数は増えましたか」, 「SC に期待することはなんですか」(「生徒や保護者へのカウンセリング」など複数の選択肢から, あてはまるものを選ぶ。複数回答可) の 5 項目にそれぞれ選択式で回答を求めた。常勤的配置の学校のみ「SC が毎日

勤務していることをどのように思いますか」という問いに, 自由記述式で回答を求めた。

結果と考察

常勤的配置校, 週 1 回の配置校による回答の違いをみるために, χ^2 検定を行ったところ, 高校生の回答では有意な結果が得られた ($\chi^2(1) = 176.08, p = .000$)。具体的には, 常勤的 SC の配置校では 90.5% の生徒が SC を知っているのに対し, 週 1 回の SC の配置校では, SC を知っている生徒は 54.2% にとどまった。一方で, 教職員への質問紙調査で, SC と交流があるかを尋ねた項目に関して, 同じく χ^2 検定を行ったところ, 有意な結果は得られなかった。その他の教職員の質問項目でも χ^2 検定の結果を行った結果, SC の必要性や期待することについていくつかの項目で有意であった。その中で注目すべきは「生徒や保護者へのカウンセリング」が SC に期待することとして選ばれた割合が低かった点である ($\chi^2(1) = 4.56, p = .036$)。このことから, 常勤的 SC であることで生徒への認知度はあがっており, 教職員から期待される役割が週 1 回の SC とは異なる可能性がある。うかがえる。

次に, 自由記述形式の質問では, SC が常勤的であることで, 予防的な対応, 即時的な対応 (聞きたい時に聞ける, 何かあった時に対応してもらえなど) が可能になることに言及する回答が多くみられた。また, 常勤的配置校の高等学校の教職員では, 毎日来てほしい旨の回答もみられた。その点に関して, 常駐的な派遣を行っている教育支援センターの調査結果からは, 他の SC と比較して教職員との交流が多くもたれ, 存在意義を感じられやすくなっていることが示された。

本研究で扱った SC の認知度や SC への期待には, 本調査では測定できていない様々な要因が関連するので解釈に注意は必要である。しかし本研究で, 常勤的 SC は週 1 回の SC とは量 (勤務時間) だけでなく, 質の異なる意味をもっている可能性が示唆された。継続的な効果検証を行う中で, 常勤的 SC と週 1 の SC の違いを勤務時間などの量で示される側面だけではなく, 質的な違いを明らかにすることが望まれる。そのことで, 学校のニーズに合わせて, SC 派遣の形態を選択することができるようになるだろう。